

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	495
事業名	フッ素塗布	予算科目	会計 一般会計・1 款 衛生費・4款 項 保健衛生費・1項 目 母子衛生費・4目
担当部課名	健康福祉部 健康課		
電話	0799 - 44 - 3004		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	母子保健法10条
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_	
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_【健康】	
	施策目標	健康増進や予防などに関する意識を高め、信頼性の高い医療・救急医療が受けられる仕組みを整える	
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助 <input type="checkbox"/>

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 南あわじ市住民で、2歳9か月と3歳3か月の幼児 対象人数(人) 783
	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	生涯にわたり歯科保健の正しい知識と技術を身に付け、歯の健康意識を高めてもらうためにも、幼児期から継続した歯科健診・フッ素塗布・ブラッシング指導等を実施し、母子ともに口腔衛生への関心を高め、歯磨き習慣と将来のプラークコントロールにつなげる。 又、フッ素化合物を歯面に塗布し、歯質を強化することにより、虫歯を予防し、乳歯のう蝕罹患率を減らすことを目指す。
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 前年度にスタッフへ出役依頼をする。 1回の雇い上げスタッフは、歯科医師1名、歯科衛生士4名、看護師1名、事務2名(H21年度) 毎月、対象者に案内はがきを送る。 必要物品の準備と会場設営をする。 当日は一人500円を徴収し、問診、ブラッシング指導、歯科健診、フッ素塗布を実施する。
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 生後7ヶ月から2歳にかけ崩出した乳歯は、歯質が弱く虫歯になりやすい。又、乳歯の管理の良否は永久歯の正しい崩出とその後の口腔状況を左右する。現在、乳幼児期から保育所・小学校にかけて一貫性のある歯科保健事業が実施されていない。平成21年度のう蝕罹患率は、1歳半で1.8%、3歳で25.2%、5歳で41.8%になっていることより、この崩出後数年間のむし歯予防は大切であり、2歳児歯科健診のフッ素塗布・ブラッシング指導に引き続き、2歳9か月児と3歳3か月児にフッ素塗布・ブラッシング指導をしていくことはむし歯予防上極めて有効であると考えられる。 洲本市では1歳半・2歳・3歳・3歳以上に、淡路市では2歳と3歳にフッ素塗布を実施してい
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧4町でも実施していたが、実施回数等協議し引き続き実施している。	

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	対象者に占める参加者の割合					指標単位
							%
	指標説明 (指標算出 方法等)	3歳児健診でのう蝕罹患率も指標として考えられるが、う蝕罹患率はこのフッ素塗布だけが影響して変動するものでもないので、参加者数とする。参加者数を上げることが、幼児と保護者の歯の健康意識を高めることにつながると考えられる。					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	
	実績値	69.7	70.5	67.1			
	達成度 (%)	73.4	74.2	70.6	-	-	
目標値設定 の考え方	他の健診受診率が95%前後のため対象者の95%を目標値とする。						
資源配分 (インプット)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	直接事業費 (千円)	607	699	679	724	731	
	看護師等報償費	264	344	331	309	308	
	消耗品費	70	82	75	142	150	
	印刷製本費	21	21	21	21	21	
	母子保健業務委託料	252	252	252	252	252	
	財 源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他	290	293	260	320	320	
	一般財源[A]	317	406	419	404	411	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	722	670	677	658	658	
	平均人件費(1日当り)	30.1	27.9	28.2	27.4	27.4	
	事業量1(事業に要した日数)	6	6	6	6	6	
事業量2(事業に要した人数)	4	4	4	4	4		
年間経費([A]+[B])	1,039	1,076	1,096	1,062	1,069		
'目的'対象人数1人当り経費 (円)	1,327.5	1,373.7	1,399.5	1,355.8	1,364.8		
経費に関する 補足説明	財源その他は個人負担金 500円/人 平成21年度まで決算額。平成22年度以降当初予算額。						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
達成度	目標達成度	%	73.4	74.2	70.6	-	-
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 達成度はまずまずだが、県下のフッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児(3歳)は、48.9%であることから考えると、南あわじ市では多くの幼児がフッ化物歯面塗布を受けていると考えられる。 しかし、これから参加者率をあげて、歯科健診・ブラッシング指導・フッ素塗布を多くの方に受けていただくことが、生涯のむし歯予防につながっていく。						自己評価 (5点評価) 3
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 目標達成度(フッ素塗布参加者率)は、ほぼ横ばいである。参加されない方は、個人で歯科医院に行ってフッ素塗布をしてもらっていたり、会場まで遠くて来にくい、保護者の仕事の都合で来れない等が考えられるが、参加されない理由を聞いて、参加率につなげていくことが必要である。 3歳児健診でのう蝕罹患率率は、平成19年度24.1%、平成20年度24.9%、平成21年度14.8%となっており、幼児の歯科保健事業全体の成果は少し出てきている。						自己評価 (5点評価) 4
	事業単価	円	1,327.5	1,373.7	1,399.5	1,355.8	1,364.8
効率性	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 個人負担金として500円を徴収しており、直接事業費の3分の1以上はそれにより賄われている。 月1回、緑保健福祉センターのみで行っており、それにより人件費等が削減できている。 平成22年度より、雇い上げの事務を1名減らしている。 以上のことより、できるだけ少ない経費で事業を実施するようにしている。						自己評価 (5点評価) 4
	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
必要性	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 国の8020運動(80歳になっても自分の歯を20本以上保つ)をうけ、兵庫県で歯の健康づくり計画(平成21年4月~平成25年3月)を策定している。その幼児期のう蝕予防の目標として、う歯のない幼児(3歳児)を83%以上にする。フッ化物歯面塗布を受けたことのある幼児(3歳児)を55%以上にする。間食として甘味食品・飲料を頻回に飲食する習慣のある幼児(1~5歳)を15%以下にする。とある。平成20年度の南あわじ市の現状は74.8% 89.1% 39.8%となっている。 個別に歯科医院へ行ってフッ素塗布・ブラッシング指導をしてもらうことも可能であるが、問診時に生活習慣の話ができる市での集団のフッ素塗布は大切な機会と思われる。						自己評価 (5点評価) 4
	総合評価	自己評価をふまえた現状分析 参加者率が少し低いことが課題となっている。 歯の衛生を保つためにも、フッ化物を利用する必要性を説明し、また参加されていない理由をきいていき、参加者率を上げていくことが大切である。				<div data-bbox="826 1507 1402 2069" data-label="Figure"> <p>評価グラフ</p> </div>	

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成23年度にできる改善・改革	平成24年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	現状維持としているが、参加者率の向上を図り、歯質強化、むし歯予防につなげる。	同左。
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 仮にフッ素塗布事業を中止した場合、経費においてプラスの面はあるが、実施しないと今以上に幼児期から学童にかけての、う蝕罹患率が上がる恐れがある。	